

令和元年度

教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価の結果報告書
(平成30年度事務事業対象)

令和元年10月
宇土市教育委員会

—目次—

I	点検・評価制度の概要	
1	経緯	1
2	目的	
3	対象事業の選定方法	
4	学識経験者の知見の活用	
5	教育委員会としての今後の方向性	2
II	点検・評価の結果	3
	事業名一覧	4
1	ICT事業	5
2	適応指導教室事業	6
3	一時預かり保育事業	7
4	入学準備祝金給付	8
5	コミュニティ・スクール事業	9
6	語学指導委託事業	10
7	地域学校協働活動推進事業 (地域学校協働活動推進員配置事業)	11
8	人材活用事業	12
9	地域学校協働活動推進事業 (放課後子供教室推進事業)	13
10	史跡宇土城跡保存整備事業	14
11	市内重要遺跡保存活用事業	15
12	小西行長関連事業	16
13	大太鼓活用事業	17
14	宇土市歴史的資料保存活用事業	18
15	図書館蔵書充実事業	19
16	給食センター施設整備事業	20
17	地域教育力活性化事業	21
III	教育委員会の活動状況	22
1	委員会議の開催状況	22
2	総合教育会議	25
3	その他の活動状況	25
	宇土市教育委員会委員名簿	26

I 点検・評価制度の概要

1 経緯

平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、平成20年4月から施行されました。

地教行法の改正目的である「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして、同法第26条の規定に基づき、教育委員会が毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行うことが義務付けられました。

2 目的

教育委員会は、首長から独立した立場で、地域の学校教育、社会教育等に関する事務を担当する行政機関として、全ての都道府県及び市町村等に設置されている行政委員会です。その役割は、事務局職員を、様々な属性を持った複数の委員による合議により、指揮監督し、中立的な意思決定を行うものです。

事務の点検・評価は、地教行法第26条の規定に基づき、教育委員会が、教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすことを目的としています。

3 対象事業の選定方法

点検評価の対象事業は、行政の政策や施策、事務事業を有効性、効率性などの視点から一定の物差し（指標）によって客観的に評価し、事務改善や分かりやすく透明性の高い市政運営につなげていくために実施された「宇土市事務事業評価」の評価体系に準じ、教育委員会が実施した全事務事業の中から、事業費が多額にわたるもの、社会的関心が高いものなど、事業の在り方を検証する必要性が高いと判断される17事業を選定しました。

4 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項の規定による有識者の知見の活用については、担当課が行った点検・評価（自己評価）の結果について、学識経験者を含む4人の外部評価委員に、対象事業についてのご意見をいただきました。

外部評価委員名簿

氏名	職業等	委嘱期間
田口 剛	元教師	委嘱の日から令和3年3月31日
伊勢 聰	放課後子供教室 コーディネーター	//
高田 勝廣	走潟公民館長	//
西山 晴美	市P連副会長	//

5 教育委員会としての今後の方向性

担当課自己評価に対する外部評価委員のご意見等を踏まえ、最終的に教育委員会としての今後の方向性を下記4つの中から選択しました。

拡充	事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
維持	概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
要改善	現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
廃止	事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ 点検・評価の結果

事業名一覧

	事業名	担当課
1	ICT事業	学校教育課
2	適応指導教室事業	学校教育課
3	一時預かり保育事業	学校教育課
4	入学準備祝金給付	学校教育課
5	コミュニティ・スクール事業	学校教育課
6	語学指導委託事業	学校教育課
7	地域学校協働活動推進事業(地域学校協働活動推進員配置事業)	生涯活動推進課
8	人材活用事業	生涯活動推進課
9	地域学校協働活動推進事業(放課後子供教室推進事業)	生涯活動推進課
10	史跡宇土城跡保存整備事業	文化課
11	市内重要遺跡保存活用事業	文化課
12	小西行長関連事業	文化課
13	大太鼓活用事業	文化課
14	宇土市歴史的資料保存活用事業	文化課
15	図書館蔵書充実事業	図書館
16	給食センター施設整備事業	給食センター
17	地域教育力活性化事業	中央公民館

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	ICT事業	担当課	学校教育課
事業目的	情報活用能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力といった社会で生きるために必要な力を高める手段として、ICTは今日の教育的課題を解決するため必要である。また、ICTの活用により、教員の指導力の向上につながり、教育活動の質の向上につながることを目的とする。		
事業内容	教育委員会では、パソコン教室のインターネット接続に始まり、教育イントラネットの整備、学校のICT環境整備を積極的に推進する。またパソコン教室のデスクトップ端末の老朽化を契機に、平成26年度は網田中学校に、また、平成27年度は全小学校に無線LAN環境整備を行い、一部ではあるがタブレット端末を導入した。平成28年度から校務用端末にシンクライアントを整備した。		
30年度の進捗状況	小学校全校(7校)のICT環境整備に当たり、端末調整、無線LAN環境整備、トラブルサポート、導入端末の修理費用、予備機の準備等を含め、これに係る導入経費を全て含むサービス使用料として、月額で使用料を支払うサブスクリプション契約を行い、特定期間内の使用権に対して対価を支払った。 この方式により資産を持つことがないため、端末数やライセンス数を管理する必要がないことから、今後はOSのサポート期間終了問題等にも支障なく対処できる。 また、平成30年度は各中学校の無線LAN環境整備を行い、タブレットを110台購入した。		
課題・問題点	学習用サーバー・教務用ソフトの導入を令和2年度から行うため、令和元年度に整備を行う予定である。その他、教職員の指導力向上のため、ICT支援員による教職員のICT指導を行う。		
予算額・決算額	H28予算額 28,665 千円(参考) H29予算額 29,914 千円(参考) H30予算額 42,559 千円	H28決算額 28,663 千円(参考) H29決算額 29,794 千円(参考) H30決算額 42,327 千円	
担当課自己評価	平成30年度で中学校の無線LANの整備を行った。今後はハード面のみでなく、ソフト面の充実を図っていきたいと思う。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・機器を使える先生方の養成を行う必要がある。 ・サブスクリプション契約を行っていることは経費削減でき、非常に良いことだと思う。 ・突発的に何か故障などがあつたときはすぐに対応できるようにしておいて欲しい。 ・維持管理するのにもっと予算がいると思うが、少ない。 ・先生方の対応が大きな課題と思う。授業に支障のないよう職員の育成が大事である。 ・ICTの活用は、これからの社会では、とても大切になってくると思う。導入することが目的とならないように情報や技術をどのように活用するかが重要になってくると思う。 ・この事業の費用対効果を期待します。 ・今からの子どもたちの教育に大いに役立てなければいけないと思う。 ・機器の充実は進んでいるが、職員のICTを使った指導力の向上も望まれる。 ・ICT関連技術は大切だと考えます。 ・H30の予算額、決算額を見ると充実されていると思う。このまま維持して欲しいです。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
平成30年度は各中学校の無線LAN環境整備を行い、タブレットを110台購入し、令和元年度は各小学校の無線LAN環境整備、その他タブレット280台を購入予定である。また、学習用サーバー等の構築を行い、令和2年度からの使用開始を図る。令和元年8月から教員のサポートとして、地域おこし協力隊の中で、ICT支援員を配置し、教職員の指導力向上に努める。令和2年度から、タブレット台数の増加、電子黒板の購入、デジタル教科書の購入を検討している。			
教育委員会としての今後の方向性	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">拡 充</div> ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業

維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	適応指導教室事業		担当課	学校教育課
事業目的	心理的又は情緒的な原因により、登校できない児童生徒に対し、相談・指導等を行うことにより、学校復帰を支援し、登校できない児童・生徒の社会的自立を育てる。			
事業内容	不登校児童生徒対応のために適応指導教室「ほっとスペース」を設置し、小集団での制作活動や軽スポーツを通して社会性を養うとともに、学習支援活動を行い学校復帰を図る。			
30年度の進捗状況	平成30年度は適応指導教室通学者の学校復帰人数は2人であった。			
課題・問題点	年々、利用者が増加している。その中で利用はしているが、なかなか教室に行けない児童生徒もいる。その場合、先生方の家庭訪問等が必要になり、先生方の負担が増えている状況である。			
予算額・決算額	H28予算額 3,373千円(参考) H29予算額 3,751千円(参考) H30予算額 3,751千円	H28決算額 3,234千円(参考) H29決算額 3,390千円(参考) H30決算額 3,369千円		
担当課自己評価	学校や教室になじめない不登校等の児童生徒にとって、社会生活性を養うために必要な制度である。			
(外部評価委員からいただいたご意見)				
<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は教室に何人通ってきているのか。 ・ひきこもりの現状(実態)は分かるか。 ・適応指導教室にも来れない児童生徒は3人の先生が家庭訪問をし、大変と思うが、解決の見通しもない。 ・事業としては充実している。 ・「ほっとスペース」を設置することにより、学校に行けない子どもたちの居場所を確保することができるが、他の子どもたちにこのような環境への理解が大切だと思う。 ・適応指導教室通学者の中で学校復帰人数の増加を期待します。 ・大切な事業であるので、より充実して欲しい。 ・利用者が増加していると記されています。大切な事業と考えます。 ・先生方の負担が軽減できるように考えて欲しいです。 ・維持して欲しい。 				
(ご意見を踏まえた今後の方向性)				
<p>児童生徒の学校・学級への復帰を目指し、事業を実施している。平成30年度は7名の通学者がおり、その中で、毎日この教室に登校してくる児童生徒は数名であり、2名の復帰に留まった。ひきこもりの実態は把握していないが、年々不登校が増加するため、適応指導教室の希望者も増加傾向にある。学校に登校できない子どもたちが、社会生活を過ごす上で、適応指導教室でエネルギーを蓄えて、今後充実した生活ができるようにすることは、大変意義あることであるため、今後も本事業を継続して実施していく。</p>				
教育委員会としての今後の方向性	<p style="text-align: center;"> 拡 充 · 維 持 · 要 改 善 · 廃 止 </p>			

※評価判定

拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業

維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	一時預かり保育事業	担当課	学校教育課
事業目的	共働き世帯の増加に伴うニーズに応え、家庭において保育を受けることが一時的に困難になった幼稚園児を預かることで、保護者の子育てを支援することを目的とする。		
事業内容	保護者の就労形態の多様化等により、家庭における保育が一時的に困難となる状況が増えており、現在通園している幼稚園児に対して一時預かり保育が必要とされている。そこで、平成27年度から一時預かり保育を市内公立幼稚園において開始した。保育時間は、年少児は午後2時から午後4時まで、年中児・年長児は午後3時から午後4時まで、また、長期休業中は午前9時から午後4時までとし一時預かり保育を実施する。		
30年度の進捗状況	幼稚園児一時預かり保育の一日平均利用園児数は、12人であった。また、年間利用人数は、宇土幼稚園が67人、花園幼稚園が48人の合計115人であった。		
課題・問題点	現在一時預かりについては、1日当たり100円の料金を、また長期休業中の夏休み期間は6,000円、春休み、冬休み期間の一時預かりについては、2,000円を徴収している。10月からは保育料無償化になり、一時預かりの無償化対象者は2号認定のみである。また、来年度から一時預かりの時間の延長を行う予定であり、勤務体系の変更、人員確保が必要となってくる。		
予算額・決算額	H28予算額 9,224千円(参考) H29予算額 9,400千円(参考) H30予算額 7,308千円	H28決算額 3,833千円(参考) H29決算額 6,738千円(参考) H30決算額 6,937千円	
担当課自己評価	共働き世帯が増加しているため、保育園を利用する世帯が増加し、幼稚園の園児数が年々減少している。令和2年度から一時預かり保育の時間を7:30～9:00、15:00～18:00と延長し、園児数の増加を図る。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・在園時のみの制度なのか、また、幼稚園以外の幼児は対象外なのか。 ・一時預かりをするかしないかは面接時に確認しているのか。 ・常勤の先生がされているのか、また、延長することで先生方から大変という声は上がらなかったか。 ・共働きの増加に伴い、一時預かり保育は重要視されているが、幼稚園教諭を確保することが必要である。 ・社会のニーズに沿った事業で大変重要であると思われる。人材の確保にも努めて欲しい。 ・幼稚園における一時預かり保育の要望が高いのは、今の時代、仕方がないことかもしれない。できる限り、要望に応える方向で取り組んで欲しい。 ・保育必要人員の確保に努力して欲しいです。 ・維持して欲しい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
雇用体系の変化に伴い、16時までの一時預かりでは、園児数が年々減少しているため、令和2年度から一時預かりの延長を行う予定である。現在の16時までの一時預かり事業は非常勤職員のみで行っており、時間延長の場合も非常勤職員で行う予定である。しかし、幼稚園教諭、保育士の人材確保は難しい状況であり、早めの対応が必要である。一時預かりの有無は申請により許可することとなり、対象者は在園児のみである。			
教育委員会としての今後の方向性	<div style="text-align: center;"> 拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止 </div>		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	入学準備祝金給付	担当課	学校教育課
事業目的	向上心の高揚を図り社会的有用の人材を育成するため		
事業内容	低所得世帯の学力優秀な生徒が高等学校及び大学等に入学する準備金として、高等学校入学の世帯に1人5万円、大学等入学の世帯に1人10万円を給付する。		
30年度の進捗状況	高等学校程度において5万円/人の支給を行った。10人の募集のうち、6人が対象になり、計30万円支給した。 短大・専修学校(専門課程)・大学において10万円/人の支給を行った。8人の募集のうち、7人が対象になり、計70万円支給した。		
課題・問題点	入学準備祝金給付の財源は寄附金であり、毎年100万円～130万円の支給を行っているが、寄附金が約5万円程度である。過去の積立金を取り崩して行っているが、財源の確保が懸念される。		
予算額・決算額	H28予算額 2,509 千円(参考) H29予算額 1,361 千円(参考) H30予算額 2,036 千円	H28決算額 2,456 千円(うち積立金1,156千円)(参考) H29決算額 1,360 千円(参考) H30決算額 2,033 千円(うち積立金1,033千円)	
担当課自己評価	低所得者に対するの事業であり、保護者の負担が減る。誰でも平等に学ぶ機会を与える制度である。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・各年度で予算の開きがある。 ・ありがたい制度と思う。 ・低所得者世帯にとっては、高校、大学の進学費用は、とても負担が大きい。このような制度があればとても助かると思う。 ・このような制度があることを周知しているか。 ・本事業の趣旨を市の広報などで広く啓発してはどうか。財源の確保に努めて欲しい。 ・この事業により進学への意欲が向上し、人材育成につながるのであれば、大変いい事だと思う。 ・維持してほしい。 			
(外部評価委員からいただいたご意見)			
各年度の予算の違いは、寄附金額の違いであり、寄附が多い年は、積立金が増えるため、予算が増加する。令和2年度から国の制度である大学授業料無償化及び私立高校授業料の実質無償化に伴い、対象者の見直しを検討する予定である。			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業

維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	コミュニティ・スクール事業	担当課	学校教育課
事業目的	保護者・地域住民が一定の権限と責任をもって学校運営に参画することにより、そのニーズを迅速かつ的確に学校運営に反映させるとともに、学校・家庭・地域社会が一体となり、より良い教育の実現に取り組むものである。		
事業内容	学校運営協議会を開催し、委員から学校運営や教育活動等に多様な意見をいただき、学校目標の共有化及び学校評価を踏まえ、改善や見直しを図る。 また、コミュニティ活動の実践により、学校の教育活動の活性化を図る。		
30年度の進捗状況	平成30年度の会議開催校と実施回数は次のとおり。 花園小学校2回、走湯小学校5回、緑川小学校3回、網津小学校4回、住吉中学校4回、網田小中学校6回		
課題・問題点	学校運営協議会のある学校については、更に地域と一体となった学校づくりを進めていく必要がある。熊本版コミュニティスクール実施校については、学校運営協議会組織がまだ立ち上がっておらず、より地域に開かれた学校であるために、協議会の立ち上げについて積極的に検討していく必要がある。		
予算額・決算額	H28予算額 1,205千円(参考) H29予算額 1,135千円(参考) H30予算額 1,286千円	H28決算額 981千円(参考) H29決算額 881千円(参考) H30決算額 855千円	
担当課自己評価	地域の子どもを地域で見守り育てることが学校運営協議会の運営により実現しており、今後も、会議等を重ねながら、学校・家庭・地域が一体となった取組を継続して行うことで、よりよい学校づくりを目指すことが、広くは地域の課題解決にもつながってくると考える。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・委員の会議を開催したという制度なのか、それとも、活動するための会議なのか。 ・コミュニティスクールとはどういうことをするのか説明して欲しい。 ・運営委員会委員が事業の中身や学校活動を理解し、もっと勉強してもらいたい。 ・宇土市全体がコミュニティスクールになって欲しい。 ・運営協議会の取組、活動の内容が、児童生徒の保護者にあまり知られていないように感じる。 ・とても良い活動なので内容説明の場があれば良いと思う。 ・地域での人材、教育力等を学校運営、教育活動に取り入れることは有効であると思われる。 ・全小中学校が、コミュニティスクールとして取り組めるよう、今後も努力して欲しい。 ・維持して欲しい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律(地教行法第47条の6)に基づいた仕組みである(文科省HPより)。今後、学校運営協議会の活性化を目指し、協議内容を地域住民に積極的に提供したり、活動報告でモデルとなるような取組については、学校便りやHPでお知らせしたりすることで、活動をより多くの地域住民に知ってもらい、地域とともにある学校づくりの推進を図る。また、各校の様々な良い取組を教育委員会においてもPRするなど、支援していくこととする。</p>			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業

維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	語学指導委託事業	担当課	学校教育課
事業目的	・外国語指導は、外国語指導助手として雇用しているALTと連携して、小中学校で外国語の授業の補助を行うことで、よりきめ細やかな指導の実現を目的とする。 ・日本語指導は、宇土市立小中学校に在籍する児童生徒で、日本語が十分に理解できない外国からの帰国児童生徒及び外国籍児童生徒が不安なく学校生活を送ることを目的とする。		
事業内容	・外国語指導は、宇土市での外国語指導の実績がある市内の業者へ委託して、外国語指導助手として雇用しているALTと連携して、小中学校で外国語の授業の補助を行う。 ・日本語指導は、県内での日本語指導の実績がある団体へ委託して、該当児童生徒が在籍する学校で個別指導を行う。		
30年度の進捗状況	・外国語指導は、外国語指導助手を市立小中学校4校へ計1470時間派遣した。派遣先の学校現場では、その指導内容や指導力について非常に高い評価が得られた。 ・日本語指導の平成30年度対象者は、鶴城中学校 1人、宇土小学校 2人でいずれも外国籍の児童生徒だった。1日2時間、週2回を基本に講師を派遣した。		
課題・問題点	・外国語指導では、令和2年度から本格的に実施される次期学習指導要領で小学校での外国語学習が拡充されるのに備えて、外国語指導助手に求められる役割が増えることが予想され、対応できる人員が確保できるかが課題である。 ・日本語指導は、対象人数が増加した場合や多国籍化した場合の対応が課題である。また外国人労働者の雇用拡大に伴い、日本語指導を必要とする児童生徒が増加する可能性もある。		
予算額・決算額	H28予算額 4,476千円(参考) H29予算額 4,639千円(参考) H30予算額 4,572千円	H28決算額 4,103千円(参考) H29決算額 4,476千円(参考) H30決算額 4,510千円	
担当課自己評価	外国語指導、日本語指導ともに、学校現場からの評価は高く、事業の目的はある程度達成できていると思われる。両事業ともに今後の必要性がますます高まることが予想され、今後も継続して推進していく必要がある。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ALTも入って指導されるのか。 ・日本語指導はありがたいと思う。 ・宇土市単独での事業なのか。 ・英語の授業はALT、担当教員、指導員の3人でされるのか。 ・とても重要な取組なので、今後も継続して欲しいと思う。 ・外国語指導の成果を期待する。また、日本語指導は、徐々に外国人労働者も増え年々国際化が進むことも予想されるのでこの事業を進めて欲しい。 ・大変良いことだと思います。児童生徒が増加する可能性があるようで、充実していくことが望ましい。 ・維持してほしい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>学校での英語指導は、ALTも行う。各小中学校での指導体制は、ALT4人と本市が委託契約している語学指導者1人の計5人からなり、基本的に、ALTと同様に教育委員会が指定した学校で指導に当たっている。英語の授業は、ALTと担当教員のチームティーチング体制で行う。今後、小学校高学年において英語が授業化されることもあり、ますます活躍の場は広がっていくと考えており、学校側のニーズも増えていくことが予想され、雇用体制をこれまでどおり維持していきたい。</p> <p>次に、日本語指導については、ご意見にあるとおり、外国人労働者の受入れの拡大が急速に進むことが予想され、対応するための国や県の支援制度も徐々に増えてきている。教育委員会としては、今後人数が増えた場合に対応できるよう、日本語指導に関する支援制度等の情報をしっかり把握していくこととする。</p>			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	地域学校協働活動推進事業 (地域学校協働活動推進員配置事業)	担当課	生涯活動推進課
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域が一体となって子どもを育てる体制の構築 ・地域の活性化や学校を核とした地域づくり ・地域住民(学校支援ボランティア)の知識や経験を生かす場の提供 ・教員が子どもと向き合う時間の確保 		
事業内容	<p>鶴城中学校区及び住吉中学校区内の小中学校(2中学校6小学校)を対象に、地域住民から学校支援ボランティアを募り、環境美化・本の読み聞かせ・通学路の安全指導・学習支援などのボランティア活動を実施する。</p> <p>また、市内7地区に地域学校協働活動推進員を配置し、学校からの要請に応じてボランティア活動を行うことで、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒を支援していくものである。</p>		
30年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア養成講座(全2回) ・地域協議会開催(全4回) ・本の読み聞かせ支援(167回)、校内環境整備支援(4回)、通学路の安全指導(学校登校日通常実施)、学習支援(丸付け(年間)・道徳講話(1回)・体験学習(34回)) 		
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業のさらなる啓発と情報発信 ・学校支援ボランティアの確保 ・地域学校協働活動推進員の選定及び確保 		
予算額・決算額	H28予算額 1,526千円(参考) H29予算額 495千円(参考) H30予算額 529千円	H28決算額 1,513千円(参考) H29決算額 315千円(参考) H30決算額 218千円	
担当課自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティア(地域住民)の知識、経験を生かす機会を設けることにより、地域の活性化・学校を核とした地域づくりへとつなげる契機になってきている。 ・市内7地区に配置した推進員をパイプ役として、学校と地域が連携・協働した活動ができるよう支援していきたい。 ・学校支援ボランティアの実践が子どもたちの心に届き、ボランティアの心を育むのに役立っている。 		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・公民館長と推進員を兼務できないか(予算を1本化できないか)。 ・公民館長と推進員が兼務の場合、仕事の内容を分けるのは難しい。 ・課題のボランティアや推進員の確保をあげてあるが、何か対策はとっているのか。 ・平成28年度と平成29年度で予算の差があるのは何故か。 ・学校、家庭、地域のつながりは教育上とても大切な事である。地域との参加をこれからもいろいろなアイデアを出し合い進めていくことが大切であり、特に子どもの減少地域では、協力体制をいろいろな面から考えていくことが課題となる。 ・ボランティアの人材育成、確保に苦労があるのではないか。 ・維持してほしい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・推進員活動と公民館長業務の棲み分けをすることは難しいが、現時点では学校や地域とつながりのある公民館長が推進役としては適任と考える。今後は、推進員を通して地域の中に推進員となり得る人材がいらないかなどの情報収集を行っていきたい。 ・平成28年度は社会教育指導員の人件費を計上、翌年度以降は別予算で計上したため、額の増減がある。 ・ボランティアの確保については、推進員による地域住民への呼びかけやボランティア養成講座を通じてボランティアに興味関心をもってもらえるよう啓発活動に力を入れていきたい。また、市広報紙やHPを活用した周知はもとより、教職員や市職員のOB、OGの方、PTA役員等に対して積極的な人材確保に努めていきたい。 			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業

維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	人材活用事業		担当課	生涯活動推進課
事業目的	様々な知識や技術を持つ地域の方々を募り、教育現場や団体、地域に派遣し、伝統・文化の継承や世代間の交流等を行うことによって、地域の教育力の向上と生涯学習活動の推進を図る。			
事業内容	生け花や絵手紙・昔遊び・太鼓演奏・着付けといった伝統文化分野を中心とし、市民から要望のある分野での専門知識を持つ方へ指導を依頼。宇土市小中学校や各地区公民館など、数多くの公共施設へ指導者を派遣し、世代間交流などを図る。			
30年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者登録件数(講師26人, 補助講師33人, 団体12団体) ・申請件数27件, 派遣実施日45日, 派遣指導者延べ148人, 利用者延べ1,641人 ・広報やホームページでの指導者・利用の募集 ・平成30年度の実績をまとめ、冊子を作成 			
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の方へのより一層の事業の周知 ・伝統芸能分野を中心とした登録指導者の高齢化による後継者等の確保 			
予算額・決算額	H28予算額 209千円(参考)	H28決算額 131千円(参考)	H29予算額 209千円(参考)	H29決算額 117千円(参考)
	H30予算額 209千円	H30決算額 147千円		
担当課自己評価	指導者や利用者双方から建設的な声をいただき、伝統や技術、生きがいを与える機会となっている。地域教育力の向上と生涯学習の推進を図るため、重要な事業の一つとして認識している。			
(外部評価委員からいただいたご意見)				
<ul style="list-style-type: none"> ・年に4～5回であるため、指導者から教えられないという話を聞く。年間通してできるようにしてほしい。また部活動のようにしてほしい。 ・学校や子ども会からの要望で需要の格差がある。 ・スポーツ関係はないか、また社会体育の管理はしないのか。 ・現在の子供たちは、昔遊び、伝承遊びを経験する場が少なくなっている。学校、地域、家庭のつながりを教育に取り入れ、多くの知識、技術を持っているボランティアを募ることにより地域の活性化につながると思う。 ・伝統文化分野を中心に地域の人材を利用することは素晴らしいと思うが、本格的には時間数や場所などで不足をきたし、奥深い伝統文化継承には不足するのではないか。学校で文化部活動を(社会人の指導者でも)、あるいは社会教育の場で文化部活動を推進してはどうか。 ・本事業の重要性から、充実してほしい。 ・維持してほしい。 				
(ご意見を踏まえた今後の方向性)				
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人に活躍の場を提供するため、同じ指導者への派遣回数は、宇土市人材活用事業実施要項において、同一年度内において原則5回までとなっているが、利用者等の要望が多ければ、回数を増やすことも検討すべきである。 ・学校だけでなく、団体・地域など様々な人の利用を想定しているため、現時点では部活動のような利用は難しいが、文化系クラブチームの構築に向けた環境づくりも教育委員会として推進していく必要がある。 ・本事業を充実したものとするため、周知・啓発活動に努めるとともに、年1回(6月)の事前研修を開催し、指導者としての在り方、子どもとのかかわり方等を重点に内容を工夫しながら人材育成に努める必要がある。 				
教育委員会としての今後の方向性	<p style="text-align: center;">拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止</p>			

※評価判定

拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業

維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	地域学校協働活動推進事業 (放課後子供教室推進事業)	担当課	生涯活動推進課
事業目的	放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回(水曜日と金曜日)実施。水曜日は学習支援員による学びタイム(ドリル学習など)、金曜日は地域の方々と共に活動するふるさとタイム(スポーツや伝承あそびなど) ・事業運営委員会(年2回)及びスタッフ会議(学期ごと)の開催 ・教育委員会ALTとの交流や、県派遣のボランティアの活用 		
30年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・網田小学校を対象に、全校児童108人のうち19人が参加 ※1年生9人、2年生8人、3年生1人、4年生1人 ・実施回数全52回(学びタイム25回、ふるさとタイム27回、中止1回) 		
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の主体的な活動を円滑に実施するための協働活動支援員(コーディネーター)や学習支援員・協働活動サポーター等の育成と確保 ・魅力ある事業プログラムの開発、創造 ・放課後児童クラブとの円滑な連携 		
予算額・決算額	H28予算額 578千円(参考) H29予算額 619千円(参考) H30予算額 632千円	H28決算額 473千円(参考) H29決算額 464千円(参考) H30決算額 437千円	
担当課自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学期や季節に応じたふるさとタイムを実施し、参加する子どもたちの生き生きとした姿が見られた。 ・地域の大人とのかかわりの中で、感謝する心や物を大切にしている態度など、子どもの豊かな心を育む契機となっている。 ・今後、地域人材の活用を行い充実した内容の提供と、ボランティアがより一層積極的に関わっていただけるよう、支援していきたい。 		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の部活動廃止により、高学年児童の放課後の活動が問題になってきている。クラブチームに行かせたいが、送迎や費用の面で参加できない事情がある。このような点も踏まえて考える必要があると思う。 ・網田地区以外での事業実施を望む。 ・指導者の人材確保について、心配する。 ・事業の充実・発展を望みます。 ・維持して欲しい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・高学年児童の放課後の活動については、小学校のカリキュラムの関係上、放課後子供教室での対応は難しいが、高学年児童の参加希望があれば、学校側と協議し、対応していきたい。 ・網田地区以外での事業実施については、昨年度、網田小学校以外の小学校にアンケートを実施したところ、地元ボランティアスタッフの確保や子どもたちの安全確保、学校や先生方の負担などの条件を整えば開設に協力できる学校が3校(花園・網津・宇土東)あった。担当課においても、放課後子供教室を網田地区以外で実施できればとの考えはあるが、市担当職員数の不足、カリキュラム上の問題や余裕教室がないといった課題もあり、また、行政のみで実施できる事業ではないため、学校の要望を聞き、協議しながら進めていきたい。 ・今後の方向性としては、課題がクリアできれば、網田小学校以外でも事業を実施したいと思うが、当面現状維持で網田小学校のみの実施を考えている。今年度の放課後子供教室の児童が11人である。定員20人を目標に内容の充実を図り、併せて指導者の固定化・高齢化という課題解決に向け、新たな指導者の確保のために、引き続き、教職員や市職員のOB、OGの方、PTA役員等に対して積極的な人材確保に努めていきたい。 			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	史跡宇土城跡保存整備事業	担当課	文化課
事業目的	史跡宇土城跡は、中世城跡としては県内で最初に国指定史跡となった貴重な文化財であり、恒久的に保存するため適切な維持管理を行うとともに、発掘調査の成果に基づいた整備を実施し、多くの市民の憩いの場や野外博物館的な施設等として生涯学習の拠点とする。加えて、体験発掘やキャスルウォーキングといった市民参加型のイベントを通じ、重要な地域資源としての認知度を向上させ、まちづくりの拠点としても活用することを目的とする。		
事業内容	保存整備工事を昭和56年度から着手。整備のための発掘調査を平成2年度(4次調査)から実施している。城跡東側の西岡神宮北側地区(第1ブロック)及び城の中心をなす千畳敷及び周辺地区(第2ブロック)は、平成18年度までに保存整備を終了し、史跡公園として市民に公開している。また、19年度から三城及び周辺地区(第3ブロック)の保存整備に着手し、一部復元工事を除き25年度までに整備をおおむね完了した。その後、長期計画に位置付けられる貝塚地区・空堀地区(第4・5ブロック)の発掘調査に着手し、調査成果を反映した整備工事を計画している。 なお、本事業は国庫補助金を得て実施している(補助率50%。事業費10,000千円を超える場合は、県の嵩上げ補助5%)。		
30年度の進捗状況	平成28年度から引き続き実施している。熊本地震や豪雨災害による土砂崩れの災害復旧関連業務が中心となった。平成30年度については、平成29年度繰越予算分で三城北側の災害復旧工事を実施するとともに、平成30年度当初予算で災害復旧工事に既設建物・電柱等の移設・解体を行った。		
課題・問題点	平成28年度以降、熊本地震や豪雨災害による被災地点の災害復旧関連業務を優先的に進めており、令和元年度まで継続する予定である。このため、整備に関する計画が大幅に遅れているが、復旧工事完了後は当初計画通りに事業を進める予定である。 また、史跡指定面積101,613.24㎡のうち、民有地5,762㎡(5.67%)の公有化が実現できていない。史跡整備を予定している範囲にも含まれているので、今後、公有化に向けた取組を行う必要がある。活用については、宇土城跡の本質的価値について広く情報発信し、市民の理解と関心を更に高めるとともに、地域の宝として利活用されるような取組を行う必要がある。		
予算額・決算額	H28予算額 2,290千円(参考) H29予算額 212,634千円(参考) H30予算額 183,818千円 (H29繰越分:176,181千円 H30当初分:7,637千円)	H28決算額 1,388千円(参考) H29決算額 31,150千円(参考) H30決算額 167,455千円 (H29繰越分:159,918千円 H30当初分:7,537千円)	
担当課自己評価	災害復旧工事完了後は、平成25年度から着手した第5ブロックの横堀跡の発掘調査を本格的に再開し、その成果を史跡宇土城跡保存整備検討委員会の指導助言を受けて整備工事に反映させる予定である。また、第3ブロックにおける城門跡の復元や、第4・第5ブロックの保存整備工事に着手する等、宇土城跡に対する市民の関心をより一層高め、地域資源として積極的に活用されるような取組を進めたい。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度から予算額が増えている。震災の影響なのか。 ・知名度を向上させる工夫が大切になると思う。 ・整備事業の成果を期待します。 ・地域の宝として、宇土市民の関心を高めることが大切と思える。 ・宇土の文化歴史を学ぶためにも維持して欲しい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・災害復旧工事完了後は、城郭遺構を適切に保護し、次世代への継承のための取組を進める。 ・宇土城跡の本質的価値について、改めて広く情報発信し、「宇土の宝」として市民の理解と関心を高める取組を積極的に行う。 			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業

維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	市内重要遺跡保存活用事業	担当課	文化課
事業目的	宇土市には、国指定3件・国登録1件・県指定8件・市指定107件の計119件の指定・登録文化財がある。これらの文化財や現時点で指定されていない遺跡の中には、国・県指定クラスの重要遺跡が存在する。これら重要遺跡を後世に継承していくため適切に管理・保存するとともに、市民に対して調査成果を広く公開する等、積極的な活用が求められている。 このことから、市内遺跡の分布調査や発掘調査、出土遺物整理等を実施することにより、国・県指定に向けた様々な要件を整理するとともに、保存計画等を策定して遺跡の活用や恒久的な保存を図る。		
事業内容	周知の埋蔵文化財包蔵地における開発行為の把握に努め、必要に応じて試掘・確認調査を実施している。また、重要遺跡である轟貝塚について、国史跡指定に向けた基礎資料収集のための発掘調査等を実施する。その他、各重要遺跡の保存・活用について、今後の保存活用等の方針を検討する宇土市重要遺跡保存活用検討委員会を開催する(年2回程度)。 なお、本事業は国庫補助金を得て実施している(補助率50%)。		
30年度の進捗状況	周知の埋蔵文化財包蔵地における開発行為の把握に努め、必要に応じ確認調査を実施した。継続実施している轟貝塚の調査については、平成23～28年度調査の出土遺物整理を行った。他、轟貝塚周辺低地部におけるボーリング調査を実施し、隣接する西岡台貝塚との間の旧地形復元を試みた。 また、宇土市重要遺跡保存活用検討委員会を1回開催し、各分野の専門知識を有する委員から今後の事業の進め方等について指導・助言をいただいた。		
課題・問題点	平成30年度は周知の埋蔵文化財包蔵地内で大規模な掘削を伴う開発行為がほとんどなかったが、一方で以前から計画されていた高規格道路「宇土道路」に関して事業が動き出し、今後は熊本県文化課とも連携し、対応する必要がある。これに限らず、一定の期間を要する本発掘調査が必要な案件が発生した場合、外部応援や業務委託などを入れられない限り、事業全体の進行に支障が出るおそれがある。また天神山古墳等、危険な状態にある被災文化財の災害復旧もまた急務である。 重要遺跡の調査としては、現在、轟貝塚の国史跡指定を最優先課題として実施しているが、その分曾畑貝塚や轟泉水道等、他の遺跡に関しては調査がほぼ進んでいない状況にある。同時進行ではなく一件ずつ成果を残す方針だが、事業の実施は遅れている状況である。		
予算額・決算額	H28予算額 3,282千円(参考) H29予算額 3,748千円(参考) H30予算額 4,865千円	H28決算額 3,149千円(参考) H29決算額 3,666千円(参考) H30決算額 4,494千円	
担当課自己評価	国史跡指定を目指している轟貝塚・曾畑貝塚について、文化庁や有識者の指導・助言のもと、発掘調査や地質調査等を継続して実施する必要がある。特に轟貝塚については、平成23～28年度調査や大学等が行った過去の調査成果を盛り込んだ調査報告書を刊行し、貝塚の国史跡指定に向けた価値付けの基礎資料としたい。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・轟、曾畑貝塚に家が建ち今後事業することは難しいと思われる。 ・重要遺跡の調査は、後世に継承していく上で必要だと思う。年次計画、工程等を作成し、維持管理が重要になる。 ・整備事業の進捗を期待します。 ・事業の継続した取組を大切にしたい。 ・維持してほしい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・轟貝塚については、これまでの発掘調査成果を整理し、その成果をまとめた報告書を刊行し、国史跡指定への準備を進める。 ・轟泉水道・曾畑貝塚については、必要な調査等を早急に実施し、その重要性・学術的価値を市民に広く発信するとともに、保存計画等を策定して有効な活用と恒久的な保存を目指す。 			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業

維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業

要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業

廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	小西行長関連事業	担当課	文化課
事業目的	<p>城下町宇土の基礎を築いた宇土城主・小西行長の人物像や国内外での活躍・功績を再評価することによって、史料の掘り起しや新たな地域資源を生み出し、地域の活性化並びに観光の振興を図る。</p> <p>具体的には、小西行長に関連した研究を発表する講演会を継続して開催し、小西行長への理解を一般の方へ深めていただく。また、史料調査を行い、最新の研究成果を「うと学研究」に掲載する等、小西行長の研究拠点として広く情報を発信する。</p>		
事業内容	<p>小西行長に関する最新研究成果を発表する「よみがえる小西行長公」講演会を開催するとともに、小西行長に関する史料の掘り起し及び調査を行う。また、過去に開催した「よみがえる小西行長公」講演会の講演録を刊行する。</p>		
30年度の進捗状況	<p>「よみがえる小西行長公」講演会第15弾(9月22日、参加者126人)と第16弾(3月9日、参加者136人)を開催した。</p>		
課題・問題点	<p>講演会参加者数が微減傾向にあるため、新規参加者を増やす工夫や積極的な情報発信を行う必要がある。また、これまで計24回開催してきていることから、テーマ設定が難しくなっているため、参加者のニーズに沿った幅広いテーマの講演会を企画する必要がある。</p> <p>本事業開始以降、全国的に著名な戦国武将・小西行長の研究拠点となるべく事業を継続してきたが、そうなるためには全国に散在する小西行長関連資料の情報集積が不可欠である。今後は、資料調査に係る予算の確保も課題となる。</p> <p>このような講演会に限らず、本市の歴史遺産に関する取組が観光振興等、他方面に上手くリンクすることができるよう更に工夫する必要がある。</p>		
予算額・決算額	<p>H28予算額 431千円(参考)</p> <p>H29予算額 390千円(参考)</p> <p>H30予算額 376千円</p>	<p>H28決算額 303千円(参考)</p> <p>H29決算額 142千円(参考)</p> <p>H30決算額 120千円</p>	
担当課自己評価	<p>本講演会は、平成30年度までに計24回開催し、毎回県内外から100人以上の参加があり、宇土市を代表する歴史イベントとして定着しているため、今後も継続して開催することが望ましいと思われる。</p> <p>また、小西行長関連講演会の参加者から講演録の刊行要望が多く、また途中から講演会に参加された方からも過去の講演会のことが知りたいとの要望が寄せられていることから、小西行長顕彰事業の重要な情報発信ツールとして、平成29年度には平成23・24年度に開催した講演録『再検証 小西行長』(第3集)を刊行し、全国の研究者や歴史愛好家から注文をいただいている。令和元年度末には、平成25・26年度開催分の講演録『再検証 小西行長』(第4集)を刊行する予定である。</p>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が減ってきている原因を検討して欲しい。 ・わらび座の講演は良かった。 ・講演会の参加が微減傾向にあるので、他の事業やイベントと、一緒に行くなど工夫が大切だと思う。 ・小西行長に関する人柄や功績など宇土人として理解する必要があると思う。更に市民に広く啓発をして、参加者が増える事を期待する。 ・本事業の充実を望みます。 ・維持して欲しい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・講演会参加者は毎回100人を超えているが、微減しているため、さらに魅力あるテーマを設定し、充実した講演会とする。 ・小西行長に関して、市広報やデジタルミュージアム等を活用した周知に努め、市民・県民への積極的な情報発信を改めて行う。 			
教育委員会としての今後の方向性	<p>拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止</p>		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	大太鼓活用事業	担当課	文化課
事業目的	「雨乞い大太鼓」は、日本を代表する民俗文化財の一つであるが、宇土市には、江戸時代から明治時代にかけて製作された雨乞い大太鼓が多数現存している。本事業は、これらの雨乞い大太鼓を活用して、市民の誇りの再生、地域社会における連携の緊密化、市民意識の高揚と産業振興等を図ることを目的としている。		
事業内容	「宇土大太鼓フェスティバル」開催助成(補助金)及び関連業務等の支援を行う。また、宇土雨乞い大太鼓保存会青年部(宇土天響太鼓)の協力を得て、「太鼓教室」を開催し、大太鼓フェスティバルや地蔵まつり等で成果を発表する。		
30年度の進捗状況	「第33回宇土大太鼓フェスティバル」(平成30年8月4日)は、「宇土の雨乞い大太鼓附関連資料」の国重要有形民俗文化財指定後はじめての開催であったことや(第32回は荒天のため中止)、市制施行60周年を記念して、雨乞い大太鼓26基を使った太鼓演奏を行った。太鼓教室の成果発表については、太鼓フェスティバルと8月23日・24日の地蔵まつりで演奏を披露した(出演は24日)。また、平成31年2月3日の「第3回地域伝統芸能祭」(於:宇土市民会館)に網田地区雨乞い大太鼓保存会が出演する等、各地区雨乞い太鼓の活動も行われた。 平成31年3月には、宇土市が大太鼓等の管理団体として文化庁から指定を受け、修繕等の手続きに関する体制が整った。		
課題・問題点	大太鼓フェスティバルについては、例年野外(市運動公園)で開催している。真夏の炎天下で準備することや、一部の団体は日中に出演しなければならないことから、開催時期の見直しを希望する声もある。また、大太鼓収蔵館には空調設備がないことから大太鼓等の資料の温湿度管理ができていないため、今後は国庫補助金を活用して整備を行う必要がある。		
予算額・決算額	H28予算額 1,273千円(参考) H29予算額 1,303千円(参考) H30予算額 1,859千円	H28決算額 934千円(参考) H29決算額 745千円(参考) H30決算額 1,663千円	
担当課自己評価	「宇土の雨乞い大太鼓」が国重要有形民俗文化財に指定されたことから、市民の太鼓に対する興味・関心がこれまで以上に高まっている。今後も大太鼓フェスティバルや各地区保存会活動等の支援を継続するとともに、太鼓教室も毎回好評であり、継続して実施していきたい。また、これらの取組を、市のホームページやフェイスブック等で積極的に発信し、宇土が誇る太鼓文化の普及啓発に努めたい。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・宇土市の太鼓は県内でも広く知られているので、これからも末永く、活用していくために維持管理が大切だと思う。 ・素晴らしい太鼓がこれほど立派に保存されていることを誇りに思う。長く宇土の文化として継承して欲しい。 ・大太鼓は宇土の宝として、充実して欲しい。 ・H30年度予算額、決算額を見ると充実されていると思う。このまま維持して欲しい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・国庫補助金を活用し、大太鼓収蔵館の環境整備を実施する。まずは、太鼓の保存に重要な温湿度管理を行うために、空調設備を整備する。その後、防火・防犯設備を整備していき、大太鼓の維持管理に対する環境を充実させる。 ・これまで34回続いている大太鼓フェスティバルについては、開催時期を見直し、今後も継続して実施できるよう検討していく。 			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	宇土市歴史的資料保存活用事業	担当課	文化課
事業目的	宇土市史編纂事業等で収集した歴史的・文化的価値を有する資料を、市民が気軽に利活用できるための環境整備を行うとともに、市民の方々が宇土の歴史・文化により一層興味を持っていただけるよう、これらの資料の持つ価値をPRし、地域活動等につなげていくための事業を実施する。		
事業内容	市史編纂事業で収集した歴史的価値を有する膨大な資料を適切に保存・整理するとともに、郷土資料の収集を積極的に行う。また、収集した資料を専門的見地から調査・研究し、「うと学資料室」等において、市民向けに広く公開し、活用の推進を図る。		
30年度の進捗状況	市民から歴史資料や芸術作品等の寄贈を受け入れた(計3件186点)。また、本市の歴史研究の成果をまとめた『うと学研究』(第40号)の刊行や「うと学資料室」の利用相談(毎月第2・第4火曜日の午後)、古文書入門講座を開催した(計10回、延べ参加者数205人)。利用相談や古文書入門講座については、利用者・参加者から継続を望む声が寄せられている。 また、本市の歴史や文化財の情報を発信するWEBサイト「宇土市デジタルミュージアム」の内容更新を積極的に行った。 これらの取組みについて、宇土市歴史的資料保存活用事業運営委員会で報告し、専門的見地から意見をいただいた(11月2日・3月15日)。		
課題・問題点	市史編纂事業等で収集した未整理の歴史的資料が多く残されている。できるだけ早く整理作業を進め、より多くの資料を公開できる環境を整える必要がある。 保存期間が終了した行政文書のうち、歴史的に見て特に重要なもの、将来にわたり残すべきものを歴史的な文書として選別し、保管している。これらの歴史的な文書は、現段階では非公開となっているが、将来的には公開・非公開基準を策定し、広く市民に公開できる体制・環境を整える必要がある。 また、資料の寄贈件数が年々減少している。個人所有の資料は廃棄される可能性があるため、今後積極的に資料保存に対する啓発を行い、寄贈を促したり、各家で適切に保存していただけるよう周知する必要がある。一方、資料を適切に収蔵・保管する施設が本市には少ないため、今後は空き施設の確保や現行の収蔵環境改善に取り組む必要がある。		
予算額・決算額	H28予算額 3,992千円(参考) H29予算額 4,404千円(参考) H30予算額 3,770千円	H28決算額 2,845千円(参考) H29決算額 3,484千円(参考) H30決算額 3,181千円	
担当課自己評価	平成26年度に開設した「うと学資料室」については、今後も教育委員会の所蔵資料を中心に公開対象資料を増やし、利便性を向上させる必要がある。 また、これまで各種講座等を開催し、「うと学資料室」の利用促進及び歴史的資料の活用を図っている。毎回多くの方に参加していただいているが、「市民が自ら学ぶ場」を提供するとともに、幅広いニーズに対応するため、今後も継続して開催する必要がある。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・宇土は美しいところが多く、「うと学資料室」をうまく活用して欲しい。 ・宇土市の歴史をより知ってもらうため、わかりやすく提供することが大切だと思う。また、より多くの人に来てもらえるような空間作りが求められる。 ・事業の成果を期待します。 ・事業の充実を望みます。 ・維持して欲しい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・広報うとに連載中の「うと学だより」、「うと学研究」の刊行、古文書講座の開催等を通じて、文化財や歴史資料を市民に周知し、興味を深める。 ・市史編纂事業等で収集した歴史的・文化的に価値のある資料を、市民が気軽に活用できる場所として「うと学資料室」を改めて周知するとともに、利用しやすい環境づくりを行う。 			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	図書館蔵書充実事業	担当課	図書館
事業目的	市民の知識・学習の拠点として、図書館蔵書の充実を図ることにより、市民サービスの向上を目指す。		
事業内容	年間を通じ図書資料の購入を行い、図書館蔵書及び図書館サービスの充実を図る。		
30年度の進捗状況	平成30年度の図書購入費は400万円。平成30年度の購入冊数は2,372冊。		
課題・問題点	今年度において耐震改修工事を行うため、蔵書の配架スペースが減少する可能性がある。これに伴い、市民が容易に蔵書を検索できるよう、閲覧スペースを含めて見直しを行い、蔵書及びサービスの充実を図ることが必要である。また、配架している蔵書の老朽化も進んでおり、市民の読書ニーズに応じた適切な図書購入を行う必要がある。		
予算額・決算額	H28予算額 4,500千円(参考) H29予算額 4,000千円(参考) H30予算額 4,000千円	H28決算額 4,500千円(参考) H29決算額 3,952千円(参考) H30決算額 4,000千円	
担当課 自己評価	予算の範囲内で図書館資料の購入・充実は出来ているが、より多くの市民に利用していただくよう、時流をとらえた資料やニーズの高い資料を揃えていく必要がある。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場のスペースについて詳しく説明をお願いします。 ・喫茶店でもあればいいと思う。(利用者が増える) ・城南町の図書館はよくイベントをされている。宇土市でのイベントをお願いしたい。 ・熊本市の本を借りれるのか尋ねたい。 ・利用しやすい図書館にして欲しい。 ・住民が行きたくなるような環境づくり、工夫が大切だと思う。 ・蔵書率の向上と利用者のニーズ等を調査し、図書館の利用者の増加にも期待します。 ・新しい図書館サービスが望まれる。 ・維持して欲しい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<ul style="list-style-type: none"> ・駐車スペースについては、耐震改修工事に併せ敷地内の駐車場整備(12台→16台)を行う予定である。また、図書館周辺で駐車可能なスペースの確保に取り組む。 ・現在「図書館まつり」や「童話発表大会」「季節のおはなし会」等、イベントを定期的に行っており、他館の取組を参考にしながら検討する。 ・熊本市所蔵の資料については、連携中枢都市圏協定に基づき、宇土市民であっても(熊本市=20箇所)の図書館)利用することができる。また、近隣自治体との相互利用を働きかけていく。 ・耐震改修工事後のレイアウト等、利用者の声を聞きながら、利用増につながるサービス等を含め、安全、安心な施設整備・管理に努める。 			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	給食センター施設整備事業	担当課	給食センター
事業目的	施設整備の点検を行い、年次計画的に優先度を決め、衛生管理の徹底や給食業務の充実を図るため、施設整備を行う。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・調理室床工事 ・マイコンスライサー購入 ・配送用コンテナ購入 ・パン箱購入 		
30年度の進捗状況	・アレルギー対応室改修工事及びアレルギー対応厨房機器購入を除き、予定どおり実施。		
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・施設は築年数40年を経過し、老朽化が進んでおり継続して使用するには、更なる整備が必要である。 ・設備も使用頻度が多く、損傷や破損が出ている。 		
予算額・決算額	H28予算額 3,857千円(参考) H29予算額 38,366千円(参考) H30予算額 17,930千円	H28決算額 1,105千円(参考) H29決算額 28,247千円(参考) H30決算額 8,213千円	
担当課自己評価	平成30年度においてはアレルギー対応室改修工事が入札不調により実施できなかった。令和元度は引き続きアレルギー対応室改修工事はじめ調理室の空調設備の整備等を行い、老朽化している施設をできる限り継続使用できるように整備を行っていきたい。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・食を提供する基となる場なので、衛生面、メンテナンスを充実していただきたいと思う。 ・施設設備の整備を着実に実施して欲しい。またそれぞれの児童・生徒に対していろいろ対応できるようになり感謝します。 ・安全でおいしい給食ができるよう取り組んで欲しい。 ・年次計画に基づき整備を進めて欲しいです。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
築40年を経過しているため、経年劣化による補修・整備は不可欠である。 今後もできる限りの施設の継続使用を方針として、また、学校給食衛生管理基準に適合していくように、優先度を考え、年次的な整備を進めていく。			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

令和元年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	地域教育力活性化事業	担当課	中央公民館
事業目的	<p>少子高齢化、情報社会等、子どもを取り巻く地域の新たな教育課題に対応し、地域において人間性豊かな子どもを育てる環境を充実させるため、各公民館を軸として地域の人的物的教育資源等を活用しながら、週末等に様々な体験活動を実施し、地域教育力の活性化を図る。</p>		
事業内容	<p>・各地区公民館で芋の苗植え、収穫等の農業体験、竹細工、昔遊び、料理教室、環境学習、施設見学、読み聞かせ等を実施。計47回 延1,953人(内支援者721人) ・3泊4日の通学合宿(網田、網津、緑川、走湯)実施。参加者72人 ・公民館子ども祭り(荒天によりマテ貝掘り中止。網田地区体育館でドッチビー等開催)</p>		
30年度の進捗状況	<p>地域の方々の支援による様々な体験活動を通して、異年齢の子どもたちの交流や地域住民との世代間交流が図られ、心豊かな子どもたちの育成につなげることができた。支援者の協力が地域ぐるみの支援体制になってきている。</p>		
課題・問題点	<p>課題としては、子どもたちはスポーツクラブや習い事等で忙しく、特に高学年の参加が少なくなっている。また、プログラムも活動内容がマンネリ化しないよう、地域や参加者の意見を取り入れるなど、より魅力的な活動を推進していく必要がある。</p>		
予算額・決算額	<p>H28予算額 788千円(参考) H29予算額 786千円(参考) H30予算額 811千円</p>	<p>H28決算額 388千円(参考) H29決算額 442千円(参考) H30決算額 548千円</p>	
担当課自己評価	<p>少子高齢・情報化社会にあって、子どもの姿を地域で見かけなくなり、異年齢、世代間の交流や遊び、地域の自然を生かした体験活動が少なくなっている中、地域の人を巻き込みながら、子どもたちの体験活動の場を提供することは、地域において人間性豊かな子どもを育てるための重要な柱となっている。また、高齢者の生きがいがいづくりにも寄与しており、「地域の子どもは、地域で育てる」という気運を高めている。さらに、地域そのものの絆が薄れている中、子どもを中心とした地域活動は、ますます重要な位置づけとなる。</p>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> ・心の成長を育成するうえで公民館活動は大きな役割を持っている。 ・子どもたちの育成を充実するためには、地域の協力体制が重要であり、いかに人材を確保するかにもよると思う。 ・本事業の成果を期待します。 ・本事業の充実、発展を望みます。 ・維持して欲しい。 			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>子どもたちは、本事業の多様な体験活動を通じて、地域の人との繋がり、地域から支えられている安心感を感じ、思いやりの心、親への感謝の思いなど、豊かな人間性を育てている。また、本事業の実施には、地域の協力が不可欠であり、地域の社会教育団体や各種団体からの支援体制の確保が重要であると考えている。今後も、より多くの地域人材の協力を得ながら、本事業を継続して実施する。</p>			
教育委員会としての今後の方向性	<p>拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止</p>		

※評価判定

- 拡 充 … 事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
- 維 持 … 概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
- 要改善 … 現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
- 廃 止 … 事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

Ⅲ 教育委員会の活動状況

1 委員会議の開催状況

宇土市教育委員会の会議は原則として公開で、毎月1回の定例会のほか、必要に応じ臨時会を開催しています。

この会議において、教育長と教育委員が教育行政の運営の基本方針や教育委員会の規則の制定改廃など、会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要事項について事務局から報告を受けています。

平成30年度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりです。

期日	場所	付議事件
平成30年4月11日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	<p>(議決事項)</p> <p>専決処分の報告及び承認を求めることについて</p> <p>宇土市学校教育指導員の委嘱について</p> <p>平成30年度宇土市学校教育努力目標について</p> <p>平成30年度宇土市幼稚園教育努力目標について</p> <p>平成30年度宇土市生涯学習努力目標について</p> <p>平成30年度宇土市人権教育推進努力目標について</p> <p>平成30年度宇土市文化振興努力目標について</p> <p>平成30年度宇土市立図書館努力目標について</p> <p>平成30年度宇土市社会体育努力目標について</p> <p>平成30年度宇土市学校給食センター努力目標について</p> <p>宇土市園・学校における食物アレルギー対応の基本方針策定について</p> <p>平成30年度宇土市立小中学校教務主任等の任命について</p> <p>平成30年度学校評議員の委嘱について</p> <p>平成30年度幼稚園評議員の委嘱について</p> <p>宇土市スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>宇土市重要遺跡保存活用検討委員会委員の委嘱について</p> <p>宇土市文化財保護審議会委員の委嘱について</p> <p>史跡宇土城跡保存整備検討委員会委員の委嘱について</p> <p>宇土市網田焼きの里資料館運営委員会委員の委嘱について</p> <p>教育功労者の表彰について</p> <p>スポーツ功労者の表彰について</p>
平成30年5月7日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	<p>(議決事項)</p> <p>専決処分の報告及び承認を求めることについて</p> <p>宇土市立幼稚園保育料に関する規則の一部を改正する規則について</p> <p>学校評議員の委嘱について(宇土小)</p> <p>学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について(花園小)</p> <p>学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について(走潟小)</p> <p>学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について(緑川小)</p>

		<p>学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について（網津小）</p> <p>学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について（住吉中）</p> <p>学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について（網田小・網田中）</p> <p>宇土市文化財保護審議会委員の任命について</p> <p>宇土市立図書館協議会委員の任命について</p> <p>宇土市社会教育委員の委嘱について</p> <p>宇土市公民館運営審議会委員の委嘱について</p> <p>平成30年度宇土市入学準備祝金採用者の選考について</p> <p>専決処分の報告及び承認を求めることについて</p> <p>宇土市教育支援委員会就学答申について</p> <p>平成30年度一般会計補正予算について（6月補正）</p> <p>平成29年度史跡宇土城災害復旧工事請負契約の締結について</p>
平成30年6月13日 （定例会）	教育委員会 2階会議室	<p>（議決事項）</p> <p>宇土市立小学校および中学校施設の開放に関する規則の一部を改正する規則について</p> <p>宇土市教育支援委員の委嘱について</p> <p>宇土市スポーツ推進審議会委員の任命について</p> <p>宇土市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について</p> <p>宇土市学校給食専門委員会委員の委嘱について</p> <p>宇土市立幼稚園規則の一部を改正する規則について</p>
平成30年7月10日 （定例会）	教育委員会 2階会議室	<p>（議決事項）</p> <p>宇土市食物アレルギー対応委員会委員の委嘱について</p>
平成30年8月10日 （定例会）	教育委員会 2階会議室	<p>（議決事項）</p> <p>平成31年度使用宇土市立中学校教科用図書の採択について</p> <p>平成30年度宇土市一般会計補正予算について（9月補正）</p> <p>専決処分の報告及び承認を求めることについて</p> <p>宇土市教育支援委員会就学答申について</p>
平成30年9月10日 （定例会）	教育委員会 2階会議室	<p>（議決事項）</p> <p>専決処分の報告及び承認を求めることについて</p> <p>宇土市教育支援委員会就学答申について</p> <p>平成30年度宇土市教育支援委員会（第1回）にかかる就学答申について</p>
平成30年10月10日 （定例会）	教育委員会 2階会議室	<p>（議決事項）</p> <p>専決処分の報告及び承認を求めることについて</p> <p>平成30年度宇土市教育支援委員会答申について</p> <p>平成30年度宇土市教育支援委員会（第2回）にかかる就学答申について</p> <p>宇土市教育委員会の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果について</p>

平成30年11月12日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 平成30年度宇土市一般会計補正予算について(12月補正) 平成30年度宇土市入学準備祝金特別会計補正予算について(12月補正)
平成30年12月13日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 宇土市民会館指定管理者運営評価委員会委員の委嘱について 専決処分の報告及び承認を求めることについて 平成30年度宇土市教育支援委員会答申について 平成30年度宇土市教育支援委員会(第3回臨時会)にかかる就学答申について
平成31年1月10日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 旧高月家住宅の宇土市有形文化財への追加指定について 宇土市教育委員会個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例施行規則について 専決処分の報告及び承認を求めることについて 平成30年度宇土市教育支援委員会答申について 平成30年度宇土市教育支援委員会(第4回臨時会)にかかる就学答申について
平成31年2月12日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 児童・生徒の表彰について 平成30年度宇土市教育支援委員会(第5回臨時会)にかかる就学答申について 宇土市立小学校及び中学校施設の開放に関する規則の一部を改正する規則について 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について 轟泉水道及び旧高月邸保存活用検討委員会設置条例について 平成29年度史跡宇土城跡災害復旧工事請負契約の変更契約の締結について 平成30年度宇土市一般会計補正予算について(3月補正)
平成31年3月11日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 専決処分の報告及び承認を求めることについて 平成30年度宇土市教育支援委員会答申について 平成30年度宇土市教育支援委員会(第6回臨時会)にかかる就学答申について 平成31年度学校産業医の委嘱について 平成31年度宇土市学校教育指導員の委嘱について 平成31年度宇土市特別支援教育相談員の委嘱について

		平成31年度宇土市心の教育相談員の委嘱について 宇土市立小・中学校管理運営規則の一部を改正する規則 宇土市社会教育指導員の委嘱について 宇土市社会教育委員の委嘱について 宇土市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則について 宇土市公民館指導員の委嘱について 宇土市地区公民館長の任命について 宇土市公民館運営審議会委員の委嘱について 平成31年度宇土市一般会計予算について 平成31年度宇土市入学準備祝金給付基金特別会計予算について
--	--	--

2 総合教育会議

期日	場所	協議事項等
平成31年2月4日	市役所仮設庁舎 2階来賓室	(協議事項) 第3次宇土市教育振興基本計画について(2019年度~2023年度) ICTの現状と今後の計画について 給食費の公会計について

3 その他の活動状況

教育委員は、教育委員会の会議に出席するほか、適宜、各種会議、関係行事へ出席をしています。

平成30年度における、その主な活動は次のとおりです。

- 宇城市町教育委員全員研修会
- 教育委員行政視察研修
- 熊本県市町村教育委員大会
- 学校訪問
- 各小中学校入学式・卒業式
- 各幼稚園運動会・各小学校運動会・各中学校体育祭
- 成人式典
- 学校給食試食会
- その他各種イベント事業への出席

【宇土市教育委員会委員名簿】

(令和元年10月1日現在)

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	おおた やすゆき 太田 耕幸	平成30. 10. 1～令和3. 9. 30
委員長職務代理者	こんどう おきむ 近藤 修	平成28. 12. 24～令和2. 9. 30
委 員	そのだ ひろこ 園田 寛子	平成29. 10. 15～令和3. 9. 30
委 員	あくたがわ まなぶ 芥川 学	平成30. 10. 1～令和4. 9. 30
委 員	しらい まさはる 白井 正晴	令和1. 10. 1～令和5. 9. 30